

【地区の魅力】

地区北側を龍ノ口山、東を芥子山、南を操山・百間川、西を旭川に囲まれ、まとまりのある領域を形成するとともに、百間川の河川空間は市民の憩いの場となっている。
 旧山陽道が平地部北部を通り、旧街道沿いや山際に歴史的街並みや寺社が残っている。
 頭高山周辺には、低層住宅を中心として、緑豊かな落ち着いた住宅地が形成されている。
 操山山麓は里山センターがあり、市民の自然保全活動の拠点となっている。
 平地部には旭川から取水した用水路が網の目のように流れ、特に北側では用水路沿いにまとまった風情ある農家集落が見られる。

【地区の課題】

平地部を流れる用水路沿いの環境を、地区の資源として活用していくことが必要である。
 旧街道沿いに残る歴史的街並みや、寺社を地域の歴史的資源として保全、活用していくことが必要である。
 周辺の自然景観と調和した良好な住環境を保全、形成していくことが必要である。
 国道 250 号沿道の秩序ある景観形成を図っていくことが必要である。

【景観づくりの目標】

緑豊かな山並みと広大な河川空間に縁取られたまとまりある景観を大切にし、旧山陽道の往來を彷彿とさせる歴史・文化的資源を活かし、周辺の自然景観、農業景観と調和した潤いある市街地景観づくりを目指す。

【景観づくりの方針】

方針	具体的な方向
1. 良好な住宅地景観を形成する	緑豊かなゆとりのある住宅地を形成する。
	地形になじんだ住宅地を形成する。
2. 歴史的景観を保全、活用する	社寺と背後の山々が一体となった特徴的な景観を守る。
	旧山陽道沿いの歴史的な街並みを適切に守り、活かす。
3. 周囲を囲む緑の景観を保全、活用する	市街地の背景となる龍ノ口山・操山・芥子山の緑を守る。
	憩いの空間、視点場として活かす。
4. 百間川や用水路などの水辺空間を活用する	里山センター周辺の緑を守り、自然体験、学習の場として活かす。
	百間川のアメニティを高める。
5. 農業景観を保全する	用水路の親水性を高め、市街地のアメニティを向上させる。
	まとまりある農地を維持し、広大な農業景観を守る。
6. 国道 250 号の沿道景観を修景する	山並みへの眺望景観を守る。
	屋外広告物の形態・意匠を適切にコントロールする。
	緑豊かな美しい沿道景観を形成する。

図 景観づくりの方針

【地区の魅力となる景観資源】



旧山陽道沿いの街並み（藤井地区）



操山の山裾にひっそり佇む集落



条里制跡が残る広々とした農地



用水路と家並みが醸し出す景観



用水路沿いのおちついた農家集落



緑豊かな戸建住宅地

